

令和5年度

教育委員会点検評価報告書
(令和4年度対象)

令和5年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	令和4年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 令和4年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（令和4年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（令和5年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	令和4年度 主な事業と経費及び成果等	31
IX	評価委員による点検・評価	39

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤田昇治（元弘前大学生涯学習教育研究センター副センター長
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・笹田和夫（元中学校校長）

IV 評価委員会

- ① 令和5年7月14日（金）
- ② 令和5年7月24日（月）

V 令和4年度 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町振興計画）

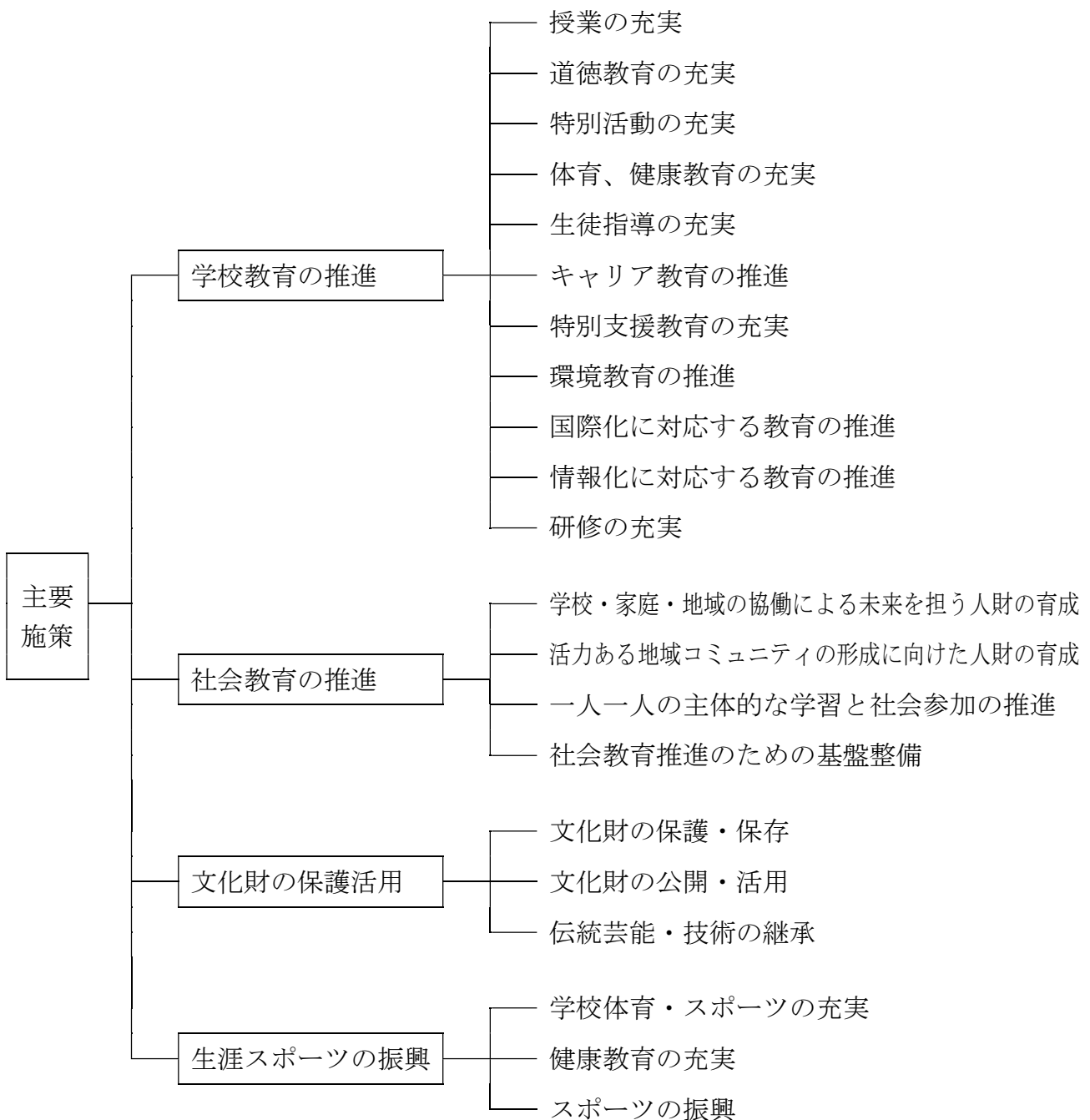
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かでたくましい人づくり

3 令和4年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（令和4年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		R01.10.29～ R04.10.28	H28.10.29 新教育委員会制度 による教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	R01.12.18～ R05.12.17		R02.1.9 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R02.10.29～ R06.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	H30.7.13～ R04.7.12		H23.7.13 就任
委員	山口 裕子	R03.12.25～ R07.12.24		H29.12.25 就任

1-2 教育委員の構成（令和5年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	前田 了二		R04.11.29～ R07.11.28	R04.11.29 就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	R01.12.18～ R05.12.17		R04.11.30 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R02.10.29～ R06.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	R04.7.13～ R08.7.12		H23.7.13 就任
委員	山口 裕子	R03.12.25～ R07.12.24		H29.12.25 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、令和4年度の定例会は12回、臨時会は2回開催している。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、令和4年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月4日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町教育委員会・事務局職員名簿 議案第1号 大鰐町教育委員会国民スポーツ大会準備室設置規則案 議案第2号 大鰐町教育委員会事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則案
第2回 定例会 5月9日	報告事項1 業務報告
第3回 定例会 6月6日	報告事項1 業務報告 議案第3号 大鰐町社会教育委員の委嘱について 議案第4号 大鰐町中央公民館運営審議会委員の委嘱について 議案第5号 大鰐町文化財審議会委員の委嘱について
第4回 定例会 7月4日	報告事項1 業務報告
第5回 定例会 8月1日	報告事項1 業務報告
第1回 臨時会 8月29日	議案第6号 令和4年度 教育委員会点検評価報告書（令和3年度対象）について
第6回 定例会 9月5日	報告事項1 業務報告
第7回 定例会 10月3日	報告事項1 業務報告

開催日	件 名
第8回 定例会 11月7日	報告事項1 業務報告
第2回 臨時会 11月30日	案件 大鰐町教育委員会教育長職務代理者の指名について
第9回 定例会 12月5日	報告事項1 業務報告 議案第7号 大鰐町教育委員会公告式規則の一部を改正する改正する規則案 議案第8号 大鰐町奨学金貸与条例施行規則等の一部を改正する規則案
第10回 定例会 1月16日	報告事項1 業務報告
第11回 定例会 2月21日	報告事項1 業務報告 議案第9号 大鰐町教育委員会事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則案 議案第10号 大鰐町公民館運営規則の一部を改正する規則案
第12回 定例会 3月6日	報告事項1 業務報告 議案第11号 令和4年度大鰐町スポーツ賞表彰被表彰者の選考について 議案第12号 令和4年度大鰐町スポーツ奨励賞表彰被表彰者の選考について 議案第13号 令和4年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について 議案第14号 令和4年度退職教員表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
	南地方市町村教育委員会連絡協議会（中止）		
令和4年 4月7日	大鰐小学校及び大鰐中学校入学式	各学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
5月2日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月15日	大鰐小学校運動会	大鰐小学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
5月30日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会・研修会（中止）		
6月13日	前期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
	社会を明るくする運動（中止）		
8月6日	大鰐町二十歳の集い	中央公民館	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
11月15日	後期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会（中止）		
2月16日	大鰐小学校スキー大会	大鰐温泉スキー場	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
2月21日	大鰐町総合教育会議	中央公民館	全委員
3月14日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
3月17日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
3月20日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>各教科の特性を考えながら、効果的な言語活動を取り入れて、各学年に応じた教科指導を行った。校内研修のテーマは、「学びをつなげ、考えを深める子どもの育成」で、令和4年度は、考えを広げてつなげることを意識した国語科と算数科の授業を展開するように研修を深めた。算数では系統的に指導することを意識し、どの学年の児童も表現力が向上した。各種学力テストの得点率は、主体的に学習に取り組む態度の観点別において、どの教科も全国平均を上回っていた。他教科とのつながり、教科の系統性、生活とのつながりを意識し考えを広げられるように、指導方法の工夫をし、さらなる授業改善をしていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>「『確かな学力』を身に付け、学び続ける生徒の育成」のために、①NRT等の学力検査に加え、アセスや生徒意識調査等の情意面のアンケート調査の実施・分析、②「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業づくりの浸透、③諸検査や調査を踏まえた取組内容の明確</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>化と共通行動の徹底の3点について取り組んだ。</p> <p>その結果、生徒意識調査等によると、生徒の授業への主体性と理解度が深まり、学習意欲が高まり、根気強く課題に取り組んだり、互いに学び合ったりする生徒が増えた。また、昨年度と比べ全体的なN R Tの学力偏差値が50を上回り、学力の低下を抑えることができた。</p>	
(2) 道徳教育の充実	<p>一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持つことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>週一時間の特別の教科道徳の時間においては、物事を多面的・多角的にとらえられるように、教科横断的な学習活動も含め、問題解決的な学習を行った。令和4年度からは、特別の教科 道徳の時間を水曜日の5時間目に全校で統一したことによって、特別支援学級の児童が交流学級でも在籍学級だけでも、どちらの学級での学習にも参加できること、全校一斉の全校道徳の時間を行うことも可能になった。</p> <p>児童の発達の段階は、年齢だけでなく個人差もあるので、道徳ノートも活用し、その時その時の児童の考えを書き留めさせるようにし、一人一人の考え方や感じ方を大切に授業の展開をするよう心がけた。</p> <p>今後も道徳性が継続的に養えるように、学校行事や児童会行事、集会活動を充実させると</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>ともに、体験的な活動を生かした授業を大切にしていきたい。また、身近な大人のモデルである教師の言動や安全で教育活動のしやすい場づくりなど、人的・物的環境を整えていきたい。</p>	
		<p>【中学校】 特別の教科「道徳」の趣旨を踏まえ、「考え、議論する」道徳の時間の授業づくりのポイントや評価内容・方法について共通理解を図った。また、別葉を基に全教育活動との関連性を明確にし、「教科書で教えること」を基本に、教科書や自作ワークシートを工夫しながら、授業を35時間以上確実に行った。さらに、学級担任だけでなく、主任及び副担任、管理職も含め全員による道徳の授業実践に取り組み、より多角的・多面的に生徒一人一人の豊かな心の育成に繋げた。</p>	A
(3)特別活動の充実	<p>一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 楽しく自己指導能力を育むことができる学校生活にするために、児童一人一人が力を出し合って、自治的・自発的な活動ができるように、特別活動の計画・実践に取り組んできた。感染症対策をとり、できる範囲でねらいに即した集会活動や縦割り班活動、学校行事を行った。上学年が中心になって全校遠足でのオリエンテーリング</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>を企画してラグビー場で楽しい集会を行えたこと、全校の児童が一体となって、「6年生ありがとうの会」を企画・運営することができたことは、全校児童を大きく成長させた機会となった。</p> <p>今後も、集団や自己の生活上の課題を解決するために、合意形成を図ったり、意思決定したりすることを通して、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を学級活動、児童会行事や委員会の常時活動を通して養っていききたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>一人一人が「夢」をもち、互いに認め合い高め合いながら、「夢」に向かって前進してほしい、そして、自分の将来に希望をもって努力することで未来につながる「虹」を描いてほしいとの願いを込めた第66期生徒会テーマ「虹～我らの願いを未来の架け橋に」のもと、①「当たり前のことを当たり前でできる鰯中生」の育成、②集団の中で他に配慮し、共に認め合い、支え合い、高め合うことのできる集団の育成、③夢や希望をもち、「なりたい自分」を思い描くことができる生徒の育成に重点を置きながら、「前年度の『鰯中宣言』の改訂と『アピール 2022』の作成、「全校話</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>合い活動」「縦割り班によるテーマ別分科会」「リーダー研修会」等様々な取組を実践した。</p> <p>その結果、委員会活動の活性化やリーダーの主体性の向上に加え、全校生徒一人一人の自立心と自律心を高めることができた。特に「鰯中宣言～アピール 2022」を採択した生徒総会では、全校生徒が自らの生活を振り返り、「人として『基本的なもの』は何か。」を考え協議し、「鰯中生にとっての『当たり前』を明示できた。また、鰯中祭や体験学習等で、生徒同士が認め合い、励まし合う機会を意図的・計画的に設定したことにより、生徒は「仲間の良さ」「仲間と共に活動する楽しさや充足感」を得ることができた。</p>	
(4) 体育、健康教育の充実	<p>一人一人の子どもが、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>教科体育の充実を図るとともに、個に応じた課題を設定し、マラソンカードや縄跳びカードを活用したり、校庭の遊具や教具を設置し環境を整えたりして、意欲的に体を動かす機会増やしている。また、個人差に応じた言葉がけや意欲付けにも配慮している。その結果、朝の時間及び休み時間には自由に体を動かす児童が増えている。</p> <p>令和4年度も地域及び各学</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>年の実態に応じた健康教育を関係機関の協力を基に行い、知識を得させたり、その様子を家庭に周知したりしながら、健康的な望ましい習慣を身につけさせることができた。</p> <p>今後も、継続的に運動をする機会を設けるとともに系統的な健康教育に取り組んでいきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>全体的に見られる本校生徒の肥満傾向や、基礎体力不足、生活習慣の乱れ、人間関係などのストレスを抱える生徒が見られることから、保健体育の実技や保健の授業、食育の授業を柱とする独自の健康プログラムを実施した。具体的には、保健体育の授業での「基礎体力づくり」、養護教諭と体育の教師による「ストレスマネジメント能力を高める授業」、栄養教諭と家庭科の教師による「食育（座学及び調理実習）」に取り組み、「心身の健康づくり」の大切さと必要性を理解させることができた。</p> <p>また、生徒一人一人が安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるように、学校安全指導計画を基に、安全学習及び安全指導を含む安全教育に取り組み、昨年度は生徒の自転車による交通事故及び校内の事故「0」を達成</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>することができた。</p>	
<p>(5)生徒指導の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を生かした授業を含め、日常の学校生活の中で、児童に対して共感的に指導・支援をしながら、児童の自己肯定感を高める教育活動を全教育課程で行った。児童や保護者の困り感や心配なことには、耳を傾け、誠実に対応するよう努力をしてきた。児童向けの教育相談（ふれあい相談）時には、「学校環境適応尺度アセス」「学校生活のアンケート」「毎日の生活をふりかえって」など各種アンケートを活用し、児童の思いに寄り添った生徒指導に取り組んだ。年3回の「情報交換会」では、適切な指導・支援及び組織的な対応ができるよう全職員で共通理解を図った。</p> <p>児童理解を深めるために、一人一人の児童と教師が向き合うとともに、分かる楽しい授業づくりに努めていきたい。また、いじめや問題行動が大きくなるといううちに未然防止を図る指導をすること、小さな芽に対して早期発見・早期対応ができることを目指し、全教職員で全児童を多角的・多面的かつ組織的に指導・支援していきたい。問題行動が起きた時は、児童が成長するチャンスと捉え、</p>	<p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>誠実かつ早急に対応したい。</p> <p>【中学校】</p> <p>「豊かな人間性の育成」のために、①生徒指導の方針「見せない見えない生徒はいても、抱えていない生徒はいない」の徹底、②「五事をただす」まずは大人から、③生徒指導の「さ・し・す・せ・そ」を踏まえた対応の3点に取り組んだ。</p> <p>その結果、アセスや生徒意識調査の結果によると、先生と生徒及び生徒同士の間関係が良好で、生徒は安心して楽しく学校生活を過ごせており、多くの生徒が先生方には厚い信頼を寄せるとともに、心を許せる友達ができていた。</p> <p>また、別室登校及び保健室登校の生徒が、3年生に2名、2年生に1名、1年生に5名いたが、不登校傾向の生徒に対する柔軟な対応により、完全不登校生はおらず、登校が継続できるようになったり、学校行事等に参加できたりした。また、3年生2名も高校への進学を果たした。</p> <p>さらに、校内外において、重大ないじめや問題行動が発生せず、全生徒が落ち着いた学校生活を過ごすことができた。</p>	A
(6) キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基	<p>【小学校】</p> <p>キャリア教育の全体計画を作成し、所属する集団やみんなのために働く経験や日常の積</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	<p>盤となる資質、能力の育成に努める。</p>	<p>み重ねを重視し、働くことの大切さや意義を考えさせ、目的をもって意欲的に学ぶ姿勢が身につくよう指導してきた。</p> <p>「キャリアパスポート」を活用し、家庭や地域の協力を得ながらキャリア形成と自己実現に向けての指導を学年に応じてしてきた。コロナ禍ではあったが、町の清掃活動など5・6年生を中心にした OH! 鰐元気隊キッズの活動を継続して行った。販売活動は、地域の方の尽力から、八戸のさくら野で行うことができ、6年生の参加児童のよき経験となった。</p> <p>今後も各学年、各教科の中で郷土学習に継続して取り組んでいくとともに、個に応じたキャリア教育につながるよう意識して授業づくりに励みたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>培いたい資質や能力を明確にしなが、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習、各学年の体験学習を関連させることで、「働くこと」や「学ぶ意義」気付けるように工夫した。さらに、今年度は「大鰐中学校学校運営協議会」と連携して、1学年「ふるさと学習」、2学年「職場体験学習」、自己の生き方を振り返り、夢や生き方に触れる機会としての全校を対象に「キャリア講話」を実</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>施した。また、年度当初に全生徒及び教職員が Dream Board（自分の目指す姿をまとめたもの）に「なりたい自分」を掲げ、そのための具体的な方法を考えることを通して、キャリアプランニング能力や進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。</p>	
<p>(7) 特別支援教育の充実</p>	<p>発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>一人一人の児童を生かし、可能性を最大限に伸ばすという視点に立ち、「個別の支援計画」に基づいた支援をしてきた。児童理解をし、合理的な配慮をし、保護者との面談も定期的に行った。家庭との信頼関係の構築はとても大切であり、学校での様子、支援の在り方などを共有することで、児童の成長を促してきた。在籍及び交流学級間の担任による日常的な情報交換もしっかり行った。</p> <p>具体的な支援を実施すること、家庭との連携を密にすること、関係機関との連携を図ること、教職員の研修を充実することなど、今後も児童や家庭を支援する体制を継続させていきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>町の特別支援委員会や小中連携協議会等の機会を通して、小学校と綿密に情報交換を行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。特別</p>	<p>A</p> <p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画と教育支援計画を作成し、保護者に説明し承認を得た上で実践している。また、通常の学級に在籍する発達障害の傾向がある生徒についても個別の指導計画を作成した結果、教職員の支援がなくても自ら教育活動に参加できるようになった。</p> <p>配慮や支援が必要な生徒については、職員会議や主任会議に加え、学期ごとの情報交換の場を設け、一人一人の生徒の状況の確認及び対応について協議した。特に、具体的な支援方法については、生徒の困り感を踏まえて教育支援員によるT Tの実施など迅速かつ柔軟に対応した。</p>	
(8)環境教育の推進	<p>一人一人の子どもが、環境と人間との関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>児童にとって日常的に安心安全な中で学校生活を送れるように、人的・物的環境を整えてきた。令和4年度も、畑やフラワーポットで、各学年に応じた花や野菜を育てることを通して、環境に対する感受性を育んで来た。低学年では学校探検や町探検、中学年では町の産業や自然、高学年ではわがまち自慢や町の歴史などを学ぶ学習活動を通して、環境に対する意識を授業の中で培ってきた。また、学校・家庭、地域社会が連携しながら、年に2回ではある</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>が、資源回収を行ったり、校内の環境美化計画をもとに教室の美化、掲示板の充実を図った。</p> <p>今後も、身近な自然や社会環境に触れさせることができるよう日常の授業の中に体験活動を積極的に取り入れていきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>国連のSDGs（持続可能な開発目標）の紹介や学校生活との関連の周知などを実践しながら、本校の現状に合った環境教育に取り組んでいる。今年度は、新入生によるつつじ記念植樹は実施することができたが、コロナ禍の影響で清掃ボランティアは実施できなかった。それでも、生徒による日常の清掃活動は年々丁寧に行われるとともに、空き教室の整理整頓が徹底され、教室や廊下には生徒の振り返りや作品などの学習の足跡が掲示されるなど、望ましい学習環境が整えられている。</p>	B
(9) 国際化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>3・4年は週1時間、5・6年は週2時間の外国語活動及び外国語の時間を最大限に生かしてきた。町のALTを積極的に活用したり、動画や写真資料を見ながら学んだりすることで、コミュニケーションを図ったり、文化の違いに触れさ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>せたりすることができた。諸外国の文化に触れること、言語を学ぶことを通して、多様性を身に付けさせてきた。</p> <p>今後も多様な文化に触れ、物事を多角的・多面的に見ることができる児童の育成を図っていきたい。指導法の技術、ICTの使い方、言語能力を高めるなどの研修も深めていきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>校内に常勤のALTがいる恵まれた環境にある。生徒は授業だけでなく、昼休み休憩室での交流、総合文化部の活動などで日常的にALTと接している。また、英語弁論大会等の指導にも尽力してくれており、生徒の国際理解を深め、英語によるコミュニケーションへの関心・意欲を高めてくれている。</p> <p>さらに、今年度は英検IBAを使い、休み時間等にタブレットで英語検定の勉強ができるソフトを取り入れたところ、英語検定に挑戦する生徒が増加して、意欲の向上に繋がった。</p>	A
(10) 情報化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルに関わる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>令和2年度に整備した一人一台端末は高学年を中心に、使用頻度は前年度よりもさらに高くなった。日常の授業の中では当たり前になり、効果的な活用を図るための職員間での研修も盛んに行われた。学年の実態に合わせて、ICTリテラ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>シーを身に付けさせるようプログラムを組んでいた。情報モラル教育では、中学校区で連携して「大鰐小・中学校 ゲームやスマホの『五つの約束』」を家庭に啓発し、定期的に児童の実態を調査して、指導に役立てた。</p> <p>今後も、各教科のどの場面でICT機器を効果的に活用するのか、何のために用いるのかを吟味していくとともに、複雑化し見えにくくなっているSNSの使用も含めて情報教育の指導計画を見直しながら活用していきたい。</p>	
(11) 研修の充実	<p>教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。</p>	<p>【中学校】</p> <p>タブレットや電子黒板、書画カメラ、デジタル教科書を各学年で使い、各教科・領域の授業だけでなく学校行事などで効果的に活用できている。また、教職員も校務用PCや校務支援システムを活用することで、事務負担の軽減と多忙化解消に繋がっている。</p> <p>また、情報モラル教育については、①オンデマンド型の情報モラル教室の実施、②小中連携での取組「ゲームやスマホの『五つの約束』」の活用と配布、③全校朝会や学年集会での注意喚起を行った。</p> <p>【小学校】</p> <p>校内研修において、全教員、全学級による提案授業を実施</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>し、組織的かつ継続的な研修を推進することで、授業力の向上を図ってきた。働き方改革の視点と授業そのものの充実を図るため、指導案は簡略化しているが、その代わり言語活動の充実と児童一人一人の個別最適な学びの保障を目指して、一人一授業を展開した。研究授業後には、ワークショップ型の協議会を開いたことで、職員の主体的な学びが見られた。校外の研修への参加も、可能な限り奨励してきた。大鰐小学校の職員の優れたところは、互いに学び合うこと、自分で得た技術を他の職員にも共有し合えるところであり、児童に良い影響を与えている。</p> <p>今後も研究授業や研修で得た学びを普段の授業で活用し、向上心をもって授業改善に取り組むよう研修を充実させていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、本校生徒の実態及び昨年度までの各教科での取組を踏まえ、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりのポイント」に加え、生徒全員が「わかる、できる、やれる」ことを実感できるように「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」のポイントを明確に</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>しながら、実践研究に取り組んだ。</p> <p>その成果として、授業参観者からの普段からの授業づくりの取組を高く評価するコメントに加え、コロナ禍にもかかわらずNRT等の諸検査結果が一定の水準を保持できたこと、学校評価結果が高評価であったことが大きな成果として挙げられる。</p> <p>これらの成果は、校内研修のビジョン(方向性)とゴール(到達点)を共通理解し、授業づくりに日々取り組めたからである。また、校内研修(教職員の興味・関心を踏まえたテーマ別online研修、指導主事等による計画訪問や要請訪問、一人一公開授業、教職員全員による道徳の授業実践)や、校外研修(県教育センター、中南教育事務所)など多様な研修機会を捉えて取り組んだ結果である。</p>	

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実	ふるさと子ども教室において、大鰐町の特色を活かす体験活動事業として、木育を目的とした「夏休みOWANIふるさと教室」では、焚き木編と木登り編の2種類を実施した。また、冬休みには、郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」を社会教育委員の協力していただきながら実施。大鰐町の特色を活かし、子どもたちが故郷への関心と知識を高め、体験活動を通して学べるような活動となった。次年度はさらに、活動を広げ、大鰐町の良さを体感させていきたい。	A
	地域が支えるキャリア教育の充実	小学6年生11名による八戸市「さくら野」での地場製品の販売・宣伝活動等の体験を実施することができた。販売・宣伝活動等の体験を通じて仕事の存在に気付かせることができた。 また、地域への愛着をもち、大鰐町社会教育に対してボランティア活動として協力してもらえるように推進していきたい。	A
	子どもの読書活動の充実	導入した図書管理システムにより、小中学校においては児童・生徒の読書状況の確認や読みたい図書を容易に探すことが可能となり、読書活動の充実につながっている。	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>また、公民館図書室においても、全国的に話題性のある本や要望のあった本をその都度購入するとともに、掲示物の配置に気を配るなど利用者の読書意欲の向上に努めた。</p> <p>更に、放課後子ども教室においても読み聞かせ活動を定期的に行い読書の楽しさの充実を図っている。</p>	
	<p>地域全体で子どもを育む活動の充実</p>	<p>地域の方を講師として小中学校での俳句出前教室の指導を行った。また、通学指導員の配置や大鰐町青少年健全育成連絡協議会による駅前の民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営により、地域全体で子どもを見守っているが、若い後継者の育成が急務となっており改善を図っていく。</p> <p>また、コロナ禍で、指導していただいた小学校のクラブ活動等の、地域の方々と子どもたちとのコミュニケーションがとれにくい状況となっていたため、これも改善を図っていく。</p>	B
	<p>家庭教育支援の充実</p>	<p>放課後等に子どもが安心して活動できる場の確保と心豊かで健やかに育まれる環境づくりとして放課後子ども教室を実施している。サポーター養成のため、県主催の研修会に参加するなど、充実した家庭教育</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>支援ができる体制づくりに力を注いでいる。</p> <p>また、令和4年度は実施できなかったが、保護者を対象とした、家庭教育の大切さを理解してもらえるような講座の内容等の家庭教育講座を実施していきたい。</p>	
(2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	地域活動実践者の育成	<p>コミュニティ・スクールを導入し、各学校で新たに学校運営協議会を設立、教育委員会で地域学校運営協議会を設立し、地域コーディネーターを選出した。地域コーディネーターが学校や地域と連携しキャリア教育活動等の総合的な調整を図ることができた。</p>	A
	地域活動の指導者、コーディネーターの養成	<p>地域活動を実施している団体代表者や個人からの相談や連絡を受け、地域イベント等に対する参加や協力を行い、地域活動指導者の育成につなげることができてきている。今後は多くの団体や個人を支援できるよう、地域コーディネーターの存在を町民が分かるよう周知を図っていきたい。</p>	A
	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援	<p>昨年は数年ぶりに、ねぶた笛教室を開催するなど、地元講師の活用をすることができた。新たな人材育成を図っていることから人材バンクの整備を含めた、ネットワークの構築と拡大に努めたい。</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(3) 一人一人の主 体的な学習と社会 参加の推進	関係機関との連携による多 様な学習活動の支援	<p>成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において町内外の機関からの協力を得て講師派遣等の支援を受けた。</p> <p>学習支援の体制づくりとともに学習内容について町民の要望等に応じながら多様な学習活動ができるように機会を設けていきたい。</p>	A
	学習成果を生かした社会参 加活動の支援	<p>成人大学では、グラウンドゴルフやボッチャの体験のほか、地域防災を通してのSDGsやスマートフォン講座等を開催した。学習成果を発揮できる場を町内に限らず探し、周知等ができるよう近隣市町村の情報まで視野を広げていきたい。</p>	A
(4) 社会教育推進 のための基盤整備	社会教育推進体制の充実	<p>町社会教育行政の方針と重点に基づき事業を展開するとともに、社会教育委員や参加者の意見をいただき事業内容の見直しを図ってきた。</p> <p>また、点検評価委員会からの評価や指摘事項に基づき、即対応・改善を図っていく体制づくりもしていきたい。</p>	B
	社会教育施設の機能の充実 と活用の促進	<p>図書管理システムの導入から7年が経過し図書室利用者の増加、県立図書館との相互貸借により多く町民が図書に触れることができる体制が作られている。</p> <p>公民館の利用についても、役場各課の事業開催、文化協会々</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>員、社会教育団体など多くの方が利用されている。</p> <p>今後においても積極的な公民館施設の開放や利用促進活動を図り、地域に根ざした来館しやすい公民館の姿を目指していく。</p>	
	<p>社会教育関係職員の養成と資質の向上</p>	<p>社会教育関係事業に関する各種会議や社会教育主事研修へ積極的に職員の派遣を実施したが、社会教育主事資格所持者の配置換え等により、現役の社会教育主事が減少している。社会教育主事の養成を計画的に進められるよう努めたい。</p>	<p>B</p>
	<p>社会教育関係団体等の活動の支援</p>	<p>各社会教育団体への補助金の交付や団体活動への職員の参加など団体活動の支援を行い、活動の支援に努めた。</p> <p>今後も継続的に社会教育団体を支援していきたい。</p>	<p>A</p>

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)文化財の保護・保存	かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	板碑の標柱の損傷が激しく計画的に修繕することとしている。令和4年度は森山地区の標柱を修繕した。その他、「はぎかつら」説明版の修繕したほか、引き続き文化財の状況把握に努め、保護及び保存をしていきたい。	A
(2)文化財の公開・活用	町民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	町文化財の状況を生涯学習だよりに2回に分けて紹介し、文化財に関する意識を高めるようにした。中でも青森県埋蔵文化財調査センターで作製した「あおり縄文カード」に大鱈町から出土した2種類の土器がカードになり多く町民がカードを貰いに来るなど、改めて町内には興味を引く文化財があることが分かった。資料として保存していきたい。	B
(3)伝統芸能・技術の継承	地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	伝統芸能技術の継承を担うには、児童・生徒が興味関心を持つことが重要であり、発表の場を提供する必要があるが、コロナ禍により様々な場面で発表の場が少なくなったりしたことは、とても残念なことである。発表の場を多くでも設けていきたい。	B

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校体育・スポーツの充実	<p>児童・生徒が、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。</p>	<p>地域の特色であるアルペン・クロスカントリースキーを親しみやすく・楽しめるような環境づくりをして町内児童・生徒の体育・健康教育の振興を図るために、スキー場リフト券の助成を実施した。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルスの影響があったものの、493人が利用し、多くの児童生徒が地域の特色であるスキーに親しみ、冬季スポーツに触れる機会を創出した。</p>	A
(2) 健康教育の充実	<p>児童・生徒が心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。</p>	<p>町給食センター栄養士及び学校担当教諭が連携し、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。</p> <p>食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギー対応など、安全な給食の確保をより一層図って行きたい。</p>	B
(3) スポーツの振興	<p>町民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。</p>	<p>大鰐町を代表するスキー競技は、平成26年度から平成28年度にかけて全国大会を開催し、令和7年度の冬には第80回国民スポーツ大会冬季大会の開催地になる予定であるため、各競技団体からの要望などを参考に国スポ開催に向けて準備を進める。</p> <p>また、虹貝多目的広場については、旧生徒会館(男女トイレ)</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>の雪囲いの撤去及び新設など利用者が安心・安全に利用できるように、環境を整備した。今後さらに更新をしなければならぬ施設用品があるため、現地を確認し、環境整備に努める。</p>	

Ⅷ 令和4年度 主な事業と経費及び成果等

事業名 / 区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
情報機器活用支援事業	880	小・中学校の教職員に対し、令和2年度末に導入した一人一台端末（タブレット）の利活用に関する研修を実施。 【令和4年度実績】 大鰐小：2回実施 大鰐中：2回実施	タブレット利用を取り入れた学校授業の機会が増え、ICTを活用した教育の推進に繋がった。
特別支援教育推進事業	10,890	小・中学校の普通学級に在籍する学習障害や多動傾向等により特別な配慮を必要とする児童・生徒の学校生活の支援を行うため、教育支援員を配置	令和4年度は、小学校に3人、中学校に2人の支援員を配置し、支援が必要な児童生徒に手厚い対応を行うことができた。
A L T 招致事業	4,767	【令和4年度実績】 人件費 4,522,885 円 旅費 0 円 需用費 0 円 役務費 51,659 円 住宅借上 78,845 円 負担金 113,600 円 計 4,766,989 円	中学校に外国語指導助手を配置することによって、生きた英語を体験することができる。また、スピーチコンテストや英検の面接の練習を手伝い Listening/Speaking 能力の向上に寄与した。 また、小学校の外国語活動の授業にも派遣し、中学校入学後の英語教科にギャップなく取り組んでいる。
スクールバス運行事業	6,788	旧長小方面 3,381,950 円 旧二小方面 3,406,150 円 計 6,788,100 円	遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、児童の登下校の安全を確保することができた。 また、令和4年度より駒木方面路線を旧長

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				小方面路線に統合したことによって、事業費を圧縮することができた。
小学校改修事業		6,563	大鰐小学校灯油地下タンク液面 制御機器取替工事 548,900 円 大鰐小学校校舎裏法面補修工事 5,775,000 円 大鰐町立大鰐小学校1階窓雪囲 い設置工事 238,700 円 計 6,562,600 円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等及び教育環境の適正な維持管理が図られた。
中学校改修事業		18,476	大鰐中学校灯油地下タンク内面 ライニング工事 3,432,000 円 大鰐中学校陸上トラッククレイ 入替工事 11,825,000 円 大鰐中学校ロッカー室入口建具 改修工事 380,600 円 大鰐中学校消火栓配管改修工事 2,838,000 円 計 18,475,600 円	
生きる力育成事業補助金		1,079	「確かな学力」「健やかな体」 「豊かな心」などの「生きる力」 を育むために、決められた予算 内において学校長の裁量で自由 に予算を執行できる。 大鰐小 655,000 円 大鰐中 424,000 円 計 1,079,000 円	小学校では、鰐っこ暗唱詩集を作成し、文芸作品を暗唱させることで、文学的興味や関心を高めるとともに、豊かな心を育むことができた。また、スキー教室の実施により、ふるさとへの愛着を育むこ

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				<p>とができた。</p> <p>中学校では、問題集の購入や実力テストを実施し分析することで、学力の向上を図ることができた。また、総合的な学習の時間において、キャリア講話を実施し、目標を高く持ち、努力を惜しまないことの大切さについて考える機会を与えることができた。</p>
部活動支援事業		2,038	<p>大鰐小・中学校における部活動等の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外競技会等に参加するための費用を補助するほか、必要に応じて備品購入に係る費用を補助している。</p> <p style="text-align: right;">大鰐小 901,000 円 大鰐中 <u>1,137,000 円</u> 計 2,038,000 円</p>	<p>大鰐小学校スキー部の児童が、県代表として2023 全日本小学生選抜クロスカントリー大会に出場を果たし、練習の成果を発揮することができた。</p> <p>大鰐中学校においても、昨年度に引き続きスキー部の生徒が全国大会に出場し、上位の成績を残すことができた。</p> <p>全国大会では、トップレベルの競技を体感することにより、向上心の醸成と技術の向上が図れ、他県の児童生徒との交流など、貴重な体験をさせることができた。</p>

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				ぶ学習機会の提供することができた。
俳句の街づくり 推進事業		216	大鰐温泉俳句の街づくり実行 委員会補助金	<p>第29回増田手古奈記念大鰐温泉俳句大会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般の部を紙上大会とし、県内外から238名もの参加者を数えた。</p> <p>更には、小・中・高校生の部においては中弘南黒平地区から852名の参加者を数え、俳句への関心の高まりを感じることができた。</p>
放課後子ども教 室推進事業		1,306	放課後子ども対策事業教育活 動サポーター、コーディネー ター謝礼金等	<p>中央公民館で平成25年度より実施しており中央公民館教室では休館日である月曜日も開催している。</p> <p>放課後における子ども安全・安心な居場所づくりのほか有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。</p>
生涯スポーツ推 進事業		333	生涯スポーツ推進及び普及の ため、スポーツ推進委員を各種 大会へ派遣し指導を行った。	<p>大鰐町スポーツ推進委員が主体となって毎年開催している『ニュースポーツフェスティバル』は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止とした。そのほかの事業に</p>

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				ついて、体力・運動能力調査の記録員や各種スポーツイベントの審判員派遣などを実施し、町のスポーツ推進に務めた。
図書購入事業		499	公民館図書室用図書購入	流行の本や推薦図書をその都度購入し、読書意欲の向上に努めることや、児童誌、生活関連雑誌を購入し町民の図書室利用に供することができた。
公民館改修事業		7,211	中央公民館高圧受電設備更新工事 4,722,300 円 自動ドア防護柵設置工事 154,000 円 アスベスト含有調査業務 2,334,200 円 <hr/> 合計 7,210,500 円	昭和45年5月に竣工した大鰐町中央公民館の高圧受電設備の更新工事等を実施した。
各体育団体補助金		967	町スポーツ協会補助金 722,000 円 (県民体育大会中止のため) 県民駅伝競走大会補助金 428,531 円 各種スキー大会 292,000 円 大鰐町小中学生スポーツ大会出場補助金 195,000 円 大鰐スキー倶楽部 100 周年記念事業補助金 300,000 円	県民体育大会及び県民駅伝が令和2～4年度と連続中止となったが、県民駅伝がコースを変更して開催されることになり、これまで練習した成果を遺憾なく発揮し、町の部3位、区間賞選手2名という好成績を残した。 スキー大会については、中・高校の大会ともにコロナ禍であったものの競技役員が尽力し

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
			<p>開催され無事終了することができた。</p> <p>令和4年度から開始した大鰐町小中学生スポーツ大会出場補助金は、東北大会、全国大会に出場する町内の児童生徒を対象に交付する補助金で、児童生徒が補助金を活用して各種スポーツ大会へ出場し、町のスポーツ振興に寄与した。</p> <p>令和4年で設立100周年を迎えた大鰐スキー倶楽部に対し、記念式典や記念誌作成のための補助金を交付することとし、昨年行われた記念式典では、全国から多くのスキー関係者が集った。関係者へ記念誌を配布することで、町の特色であるスキーについてより広く周知することができた。</p>
小中学生スポーツ大会出場補助金	195	<p>利用人数及び補助金額 (コーチ含む)</p> <p>東北大会 6人 55,000円 全国大会 7人 140,000円</p>	<p>町内在住の小・中学生のスポーツ振興を図るため、令和4年度から新設した。地域のスポーツクラブや他市町村のスポーツクラブに在籍する児童生徒及びコーチへ、東北大会及</p>

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				び全国大会出場に係る経費を補助することによりスポーツ振興に寄与することができた。
小中学校スキー 振興事業		623	利用人数及び助成金額 小学生 355 人 408,250 円 <u>中学生 138 人 213,900 円</u> 計 493 人 622,150 円	当事業は昨年度に比べ、利用人数が51人増となった。その要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まりつつあり、規制も徐々に緩和されつつあったため利用人数が増加したと考えられる。結果として昨年度よりも多くの児童生徒が事業を活用し、地域の特色であるスキーに触れ、親しむ機会を創出することができた。
虹貝多目的広場 管理費		3,480	施設修繕 (鋼製物置屋根修繕、虹貝多目的広場旧生徒会館屋根修繕ほか) 777,700 円 虹貝多目的広場環境整備業務委託料 (草刈り、薬剤散布等) 911,240 円 工事費 (遊具撤去、旧生徒会館雪囲い撤去新設工事ほか) 1,496,000 円 AED (除細動器) リース料 99,000 円 その他 (消耗品、光熱水費ほか) 195,825 円	令和4年度は、野球場物置小屋屋根の修繕、前年度に豪雪で壊れてしまった旧生徒会館屋根の修繕を行った。そのほか、同建物の雪囲いが腐食して倒れている状態であったため、利用者に危険が及ばないように、解体して新しい窓付けの雪囲いを設置するなど、利用者が安全に安心して利用できる施設になるよう改善に努めた。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

・教育委員の会議としては、毎月1回の定例会議が12回開催され、また、2回の臨時会が開催された。全委員の参加の下、事務局の報告や委員の議論が概ね適切になされている。

「コロナ禍」にあつて、県内及び中南地方の市町村教育委員会連絡協議会定例総会・研修会が中止となり、教育委員としての研修や交流機会が失われたことは残念であった。

また、「二十歳の集い」や小・中学校の入学式などの多くの行事への参加が制限された中で、小・中学校の訪問がなされていることは高く評価したい。

・定例会及び臨時会が計画的に開催されている。その中で教育長の業務内容が報告され、教育委員間で内容の共有化がなされている。

【学校教育の推進について】

・「授業の充実」の項目では、多様な取り組みの中で、学力の形成で大きな成果を上げている。また、「特別活動の充実」や「体育・健康教育の充実」、「生徒指導の充実」、「特別支援教育の充実」などの項目でも、小学校及び中学校で大きな成果を上げている。今後は、ITの多様な発展や地球温暖化、地域産業の衰退など、社会生活や教育を営む基盤の変容が予想される中、どのような教育を追求すべきか様々な角度から検討し、より良い実践を追求していただきたい。

・「授業の充実」については、小学校では「学びをつなげ、考えを深める子ども」、中学校では「主体的・対話的で深い学び」を育成することを目指して、教員間で共通理解を図りながら取り組んでいる様子が伺われる。その結果、小・中ともに主体的に学習に取り組む態度の向上が見られ、学力検査では全国平均を上回るなど成果を上げている。今後、小・中の系統性をさらに深め、授業改善に向けた研修を充実させながら、「確かな学力」の育成を継続してほしい。

「生徒指導の充実」については、小・中とも「学校環境適応尺度アセス」「意識調査」を活用するなど連携して取り組んでおり、重大ないじめや問題行動が発生していない。そのことから教員と生徒の良好な信頼関係をもとに落ち着いた学校生活を送っている様子が伺われる。特に中学校では別室登校の生徒が各学年数人いるものの完全不登校生はおらず、3年生2名も高校へ合格するなど成果を上げている。今後も児童・生徒に寄り添いながら、生徒指導の三原則を生かした指導に取り組んでいただきたい。

「キャリア教育の推進」については、これもコロナ禍での制約はあったが、小学校では町の清掃活動や販売活動などで、上級生を中心に「OH! 鰐元気隊キッズ」による活動を通して経験を深めている。また中学校では、「大鰐中学校学校運営協議会」と連携して「ふ

るさと学習、職場体験学習、キャリア講話」を実施するなど、地域関係機関・団体と連携しながらキャリアプランニング能力の育成に努めている。今後も大鰐町の特色を生かした取り組みを進めていくことが期待される。

【社会教育の振興推進について】

・「青少年の体験的活動の充実」や「地域が支えるキャリア教育の充実」、「子どもの読書活動の充実」、「地域活動実践者の育成」、「関係機関との連携による多様な学習活動の支援」、「学習成果を生かした社会参加活動の支援」、「社会教育施設の機能の充実と活用の促進」などにおいて大きな成果を上げている。今後、住民一人一人の多様な学習要求を把握しながら、地域における公民館活動の蓄積をいかし、様々な団体や関係機関などとも連携し、住民の社会参加や地域づくりを追求していただきたい。

・「青少年の体験的活動の充実」を図るために、木育を目的とした「夏休みOWANIふるさと教室」開催し、焚き木編と木登り編を実施している。大鰐町の自然環境を活かした本体験活動は、児童生徒の健全な成長発達に大きく関わっていくものであり、非常に意義深い活動として注目される。

「学習成果を生かした社会参加活動の支援」として、成人大学では、グラウンドゴルフやボッチャの体験のほか、地域防災を通してのSDGsやスマートフォン講座等を実施している。これらは昨今のデジタル化に対応した事業として高齢者等の社会生活の充実を推進するものであり、今後も工夫したプログラムを企画し運営していただきたい。

「地域全体で子どもを育む活動の充実」については、小・中学校での「俳句出前教室」への講師派遣、通学指導員の配置、青少年健全育成連絡協議会による駅前民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営をしている。これらの事業は、地域の子どもたちが町を愛し、子どもたちの命と安全を守るために大切なことであるが、若い後継者が不足しており関係機関・団体と連携しながら総合的な育成を急ぐ必要がある。

【文化財の保護活用について】

・文化財の保護活用を図る行政としては、「かけがえのない文化財を次世代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める」ことが最も基本となるところであり、この領域では大きな成果を上げている。今後は、「文化財の公開・活用」と「伝統芸能・技術の継承」に努力していただきたい。

なお、文化財については、考古学の領域のものだけでなく、高度経済成長期あるいはそれ以降まで範囲を広げ、地域で継承・保存されてきたものを住民とともに収集を図ることが必要とされるのではないかと考えられる。

・文化財の活動状況については、青森県埋蔵文化センターで作製した「あおり縄文カード」に大鰐町から2種類の土器が採用になり、多くの希望する町民に配布している。このような実績を受けて、町民への情報提供を目に見える形で行うなど工夫することによって、町内文化財の関心度を高めその保護活用につなげていただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

・「学校体育・スポーツの充実」という項目では、アルペン・クロスカントリースキーに親しみ楽しむことができる環境にあることを活かして大きな成果を上げている。今後は、「健康教育の充実」や「スポーツ振興」が図れる必要があるのだが、関係団体や機関との連携を重視する必要がある。

また、健康については多くの住民の関心があると考えられるところであり、情報発信や働きかけに工夫を凝らし、継続的努力していただきたい。

・町内児童生徒に対してスキー場リフト券の助成をしているが、今年度もコロナ感染の影響を受けながらも493人の利用につなげている。今後も小・中学校や関係機関・団体とも連携し、児童生徒や保護者の興味関心に沿った形での取り組みを進めていただきたい。

また、令和7年度に行われる第80回国民スポーツ大会冬季大会を控えているが、主催当局と地元大鰐町の特色を活かした大会になるよう準備を進めていただきたい。